

笑ってごらん

第 637 号 H. 30. 11. 06 発行

～今日の格言～

毎日毎日の足跡がおのずから人生の答えを出す。
きれいな足跡にはきれいな水がたまる。

(相田みつを)



霜月 11 月に入り朝夕は冷たい風を感じるようになってきた。クールビズ期間も終了し冬服更衣となったが、日差しがある日中の時間帯はまだシャツ 1 枚で過ごすことができる。衣服の着脱で調節できるとはいえ体調を崩しやすい時期でもある。十分気をつけて欲しい。

さて、1～2 日に行われた文化祭。『力戦奮闘 ～咲かせ！鳳凰華～』とのテーマのもと元気よく執り行われた。

ステージ部門・展示部門・模擬店部門、それぞれに趣向を凝らした取り組みが見受けられ、私自身楽しむことができた 2 日間であった。恐らくお客様方も生徒諸君の熱い息吹を感じ取ってくださったことであろう。

角が立つので具体的なピックアップは差し控えるが、そこかしこに『力戦奮闘』の跡を垣間見ることができたことが嬉しかった。

楽しい 2 日間を過ごせた。ありがとう！



ある冊子に目を通していたら言葉の用法の変化について書かれていたので、いくつか紹介する。

『概を飛ばす』は「元気がない者に刺激を与えて活気づける」の意味で使われることが多くなっているが、本来は「自分の考えを広く伝え、同意を求めたり決起を促したりする」意味で使われる慣用語。

『慥然』は「腹を立てている様子」として使われているが、本来は「失望してぼんやりとしている様子」を表すという。

『割愛する』は「不必要なものを切り捨てる」意味で使われているが、本来は「惜しいと思うものを手放す」ところらしい。

『失笑する』は「笑いも出ないくらいあきれ」意味で使われているが、「こらえ切れず吹き出して笑う」のが本来の意味。

これらの言葉は、新しい用法が定着しつつあるケースの例であるが、用法が本来とは異なっている場合、既に広く用いられている場合には、それを誤りであると考えする必要は無いとのこと。

言葉も時代の変遷とともに移り変わる

11 月 15～16 日、鹿児島県高等学校教育研究会看護部会秋季研究協議会を本校看護学科専門課程校舎にて執り行う。県内の看護科設置校の校長先生や看護の先生方が一堂に会し、看護教育に関する意見交換や研究活動を行うもの。会合の規模によって違いもあるが、他校の先生方に来校いただいて会を運営するのは毎回緊張するものである。

今回は研究授業を提供し、その内容を含め今後の看護教育の在り方について熱く語る流れとなっている。

看護の先生方による研究活動と並行して校長会も行う。2020 年夏に実施する全国看護高等学校研究協議大会（本校主管）についての準備協議を行うことになる。

会議は専門課程校舎のみの使用であるが、休憩・移動時間に学校全体を見学される場合もある。これまでに以上に清掃活動を徹底し、きれいな鳳凰高等学校を見ていただこう！